

事務局だより

会議報告

令和5年4月1日より令和5年9月30日まで

◆第28回理事会

月 日：令和5年6月2日(金)

場 所：主たる事務所
出 席：理事・監事

決議事項

- ① 自令和4年4月1日至令和5年3月31日 事業年度に係る事業報告の件
 - ② 自令和4年4月1日至令和5年3月31日 事業年度に係る決算の件
 - ③ 顧問選任の件
 - ④ 定時評議員会の開催・招集の件
- 報告事項…
- ① 理事選任の件
 - ② 評議員選任の件
 - ③ 理事選任の件
 - ④ 職務執行の報告
 - ⑤ 会員数の報告

◆第15回評議員会

月 日：令和5年6月19日(月)

場 所：主たる事務所
出 席：評議員

報告事項

- ① 自令和4年4月1日至令和5年3月31日 事業年度に係る事業報告の件
- ② 理事選任の件
- ③ 評議員選任の件
- ④ 顧問選任の件
- ⑤ 会員数の報告

決議事項

- ① 自令和4年4月1日至令和5年3月31日 事業年度に係る決算の件
- ② 理事選任の件

会員数報告(令和5年9月1日現在)

賛助会員 119件
 団体・法人会員(特別・正) 84件
 個人会員 1,071名
 合計 1,274件

※役員名簿は財団ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

新入会員ご誘致のお願い

多くの方に世界遺産糸の森の環境保護と下鴨神社の文化財保全にご理解・ご協力をいただきたく、会員の皆さまには、新しい会員募集の呼びかけに一層のご支援、ご協力をお願いいたします。糸の森財団ホームページの「入会申込フォーム」からお申込みいただけます。

ご寄附のお願い

令和四年度及び令和五年度の前半も多くのご寄附をいただき、糸の森に関する数々の保存整備事業を実施することができました。心よりお礼申し上げます。令和五年度の後半も引き続きご支援をよろしくお願いいたします。ご寄附は同封の振替用紙をご利用いただけますようお願い申し上げます。また、糸の森財団ホームページの「寄付申込フォーム」からお申込みいただけます。

クレジットカード決済による寄付・会費のお支払

ご寄付・ご入会(継続の年会費支払も含みます)・ご献木をされる際に、糸の森財団ホームページの申込フォームにおきまして、クレジットカードでの申込が可能となります。国際ブランド(VISA、JCB等)のいずれかのロゴがついていれば、発行しているカード会社に関係なくご利用可能です。クレジットカード決済であれば、お支払いに当り、金融機関等に足を運ぶご負担が軽減されます。

下鴨神社だより

祭事日程

● 令和5年下半期祭事	10月15日	えと祈願祭	1月4日	蹴鞠初め
12月12日	御薬酒若水神事	1月5日	初えと祭	
12月31日	大祓	1月7日	成人祭	
● 令和6年上半期祭事	1月1日	歳旦祭	2月3日	節分祭
			3月3日	流し糺

各祭事の開催有無については、下鴨神社のホームページにてご確認ください。

ニュース

寄附金に税額控除制度が適用されます

当財団は平成29年8月10日付で内閣府より「税額控除に係る証明書」を取得しました。その後更新され、現在は令和4年7月27日付の新たな「税額控除に係る証明書」(令和9年8月9日まで有効)が当財団HPに添付されています。これにより、個人の当財団への寄附・会費・献木について、領収書及び「税額控除に係る証明書」を添付の上、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、左に示す算式により算出された額が所得税額から控除されます。

$$\text{寄附金特別控除額} = \left[\begin{array}{l} \text{その年中に支払った} \\ \text{公益社団法人等に対する} \\ \text{寄附金の額の合計額} \end{array} - 2,000\text{円} \right] \times 40\%$$

(※1) (※2)

※1「その年中に支払った公益社団法人等に対する寄附金の額の合計額」については、その年分の総所得金額等の40%相当額を限度とされます。
 ※2 寄附金特別控除額は所得税額の25%相当額が限度となります。

糸の森 団報 財会

令和5年9月30日発行
通号76号

Vol.28

糸の森

糸の森ぶらりぶらり 第二十七回

御蔭神社の歴史

糸の森NEWS / 催事案内

表紙写真 / 中田 昭
「紅彩」

題字
賀茂御祖神社
新木直人宮司

糸の森

編集・発行

公益財団法人

世界遺産賀茂御祖神社境内糸の森保存会事務局

〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59 賀茂御祖神社内 ☎075-781-0010

www.tadasunomori.or.jp





糺の森財団

特別顧問 平野 信行

(株式会社三菱UFJ銀行 特別顧問)

平素より、糺の森財団の活動にご支援を頂いております皆様にご心よりお礼申し上げます。

糺の森は賀茂川と高野川の合流地点にあり、京都の街中とは思えない豊かな自然が広がっています。都市の中の森という意味では、東京に住む私が折訪れるのは明治神宮内苑の森です。うっそうと茂る樹々は神域を包むのに相応しい佇まいを見せていますが、実は100年の計で造営された人工林であり、戦前の学徒出陣や二度のオリンピックの舞台となった外苑と併せ、その歴史を知る人にとっては明治以降の日本の近代史を想起させる場なのです。

糺の森に足を踏み入れた時に、私たちの胸に湧き起こる想いは全く異なります。それはまさに、平安遷都千二百年余りにわたり、高度に洗練された文化を紡ぎだして続けてきた、世界に類を見ない都市の歴史を見守ってきたこの森の絶えることのない静かな営みであり、そこで生じた栄華や戦乱、そして柔軟で鮮やかな変化の歴史への深い感慨にほかなりません。

もともとそんなことを考えるようになったのは、ごく最近のことです。京都で大学時代を過ごしたときに漠然と抱いた不思議な時空の感覚の謎が、その後ほぼ半世紀にわたり、江戸・東京という近世・近代の都市と欧米・アジアの諸都市で暮らし、或いは訪れた結果、ようやく自分の中で解き明かされてきたのだと思います。今また糺の森財団とのご縁を頂き、この森に足を運び、そこに鎮座する賀茂御祖神社に参詣し祭事に参加させて頂けることにこの上ない喜びを感じています。

はるか古からのこの祈りの森は、今では人類共通の世界文化遺産ですが、周辺地域の急激な都市化や地球温暖化に伴う大規模な風水害など新たな危機を迎えており、景観保全や環境保護が急務とされています。会員の皆様と共にかけがえない糺の森を守り後世に伝えることに些かなりとも貢献できればと願っています。

御蔭神社の歴史

御蔭祭保存会 会長 大塚 侑市

(株式会社 オーツカ 会長)

御蔭祭保存会の会長を務めさせていただいております大塚と申します。御蔭祭とは、毎年五月十二日(旧暦では四月中旬日)に、賀茂祭(通称・葵祭)の前儀として執り行われている神事です。御蔭祭が執り行われるようになったのは、『世界文化遺産・賀茂御祖神社〜下鴨神社のすべて』(淡交社・平成二十七年)によりますと、「社記」に綏靖天皇の御宇(紀元前五八一年ごろ)から始められたと伝わるとあります。

また、御蔭祭関連の記録上の初見は、平安時代後期の公家の藤原実資の日記『小右記』寛仁二年(一〇一八)十一月二十五日の「昨日下午社禰宜久清進解文。尋旧記、皇御神初降給小野郷、大原御蔭山云々。」とみられています。

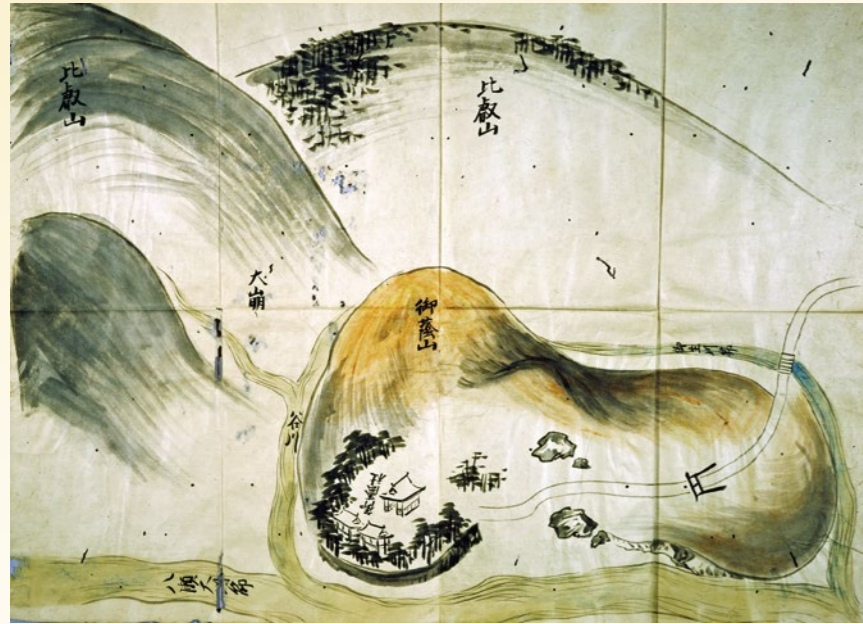
この文章にあるように、御蔭山は、御祭神が初めて降臨なされた地と旧記にあると、当時の下鴨神社の禰宜の鴨久清が朝廷に説明しているように、本社の御祭神の荒御魂の二柱が御蔭神社に祀られており、五月十二日に、下鴨神社から御蔭山まで行列を組んで練り歩き、御蔭神社にて御神霊をお迎えし、本社まで戻る神事を御蔭祭と言います。



御蔭神社の本殿

糺の森
ぶらりぶらり
第二十七回





旧地御蔭社図面



御蔭山新社地絵図

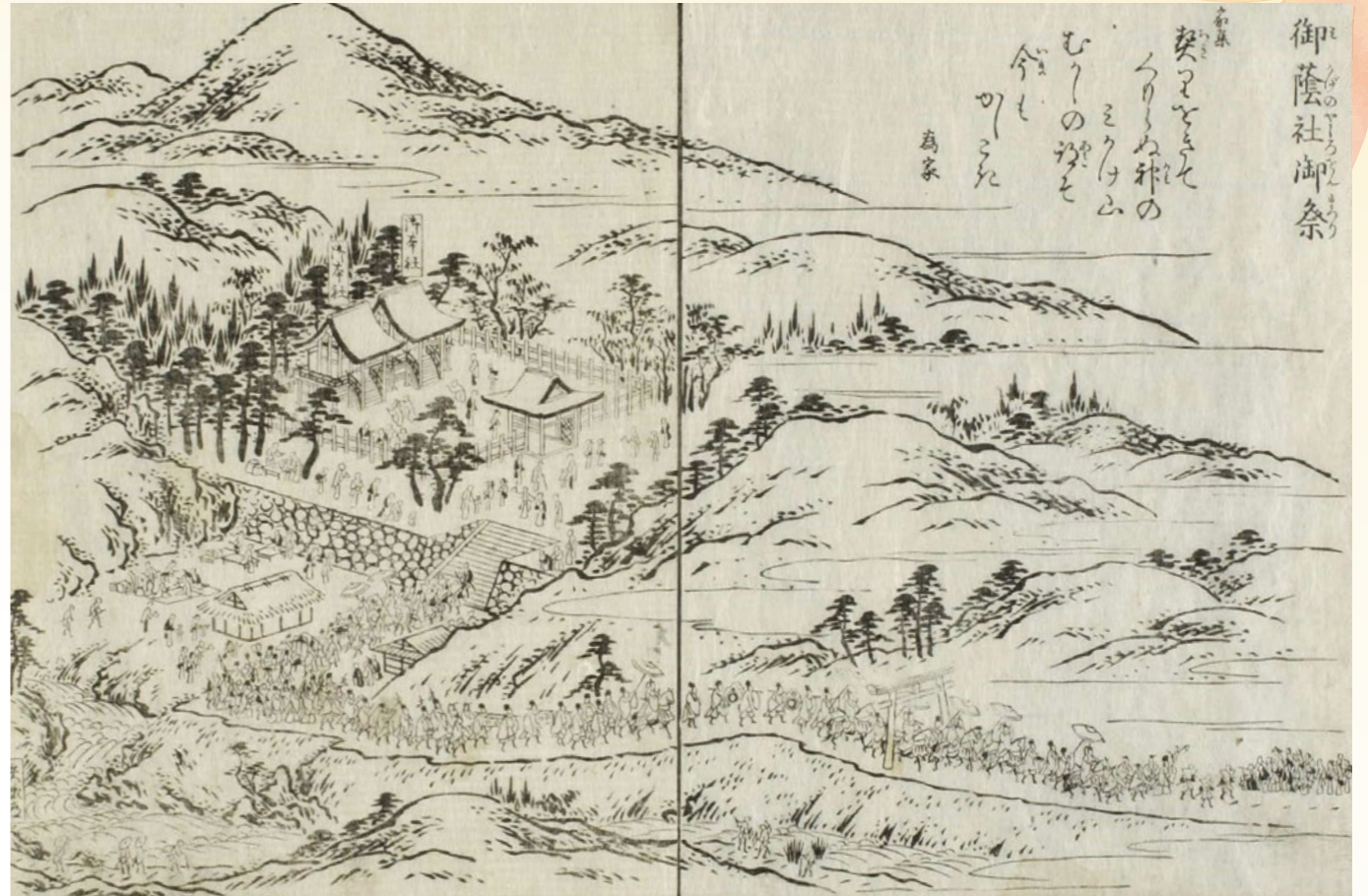
様子を知る史料に、秋里籬島の『拾遺都名所図会』（天明七年（一七八七））に御蔭神社での御蔭祭の様子が掲載されています。この図を見ますと、御蔭神社の傍に大きな高野川が流れています。また、下鴨神社所蔵の「旧地御蔭社図面」は、彩色が施され当時の御蔭神社の様子が描かれています。これには、「八瀬大川筋」（高野川）

に加え、御蔭山の周囲を「谷川」、「御生川筋」の河川に囲まれている様子が分かります。東西御本殿の前には拝殿が見え、表参道の両側には巨岩が描かれており、これは磐座ではないかと神社さんから聞き取りました。しかし、御蔭山の周囲は、もろい所が多かったようで御社殿の背後に

「大崩」と書かれた場所があります。風水害により、もろい岩盤が崩落し何度も御蔭神社は被災しております。糺の森財団の前身である財団法人糺の森顕彰会が昭和六十年に刊行しました『鴨社古絵図展』の図録を拝見しますと、宝暦八年（一七五八）八月に豪雨により谷川が決壊。山崩れが起こり、御蔭神社の御社殿や玉

垣、石垣が埋没・崩壊した様子を描いた「御蔭山頭図（旧御蔭社頭絵図）」という地図や文政十二年（一八二九）七月に賀茂伝奏に提出された控えの地図である「比叡山西麓御蔭社」にも東本殿側が土砂に覆われている様子が描かれています。たび重なる被災を受け、幕府との交渉の結果、天保度の式年遷宮にて、現在地に遷座されたとのこと。

現在の御蔭山中腹に遷座されてから、参道となる山道沿いに「御蔭山新社地絵図（御蔭山新旧社地之絵図）」にありますように、「常小屋」や御蔭祭用の「仮建場所」などが設置されました。現在、第三十五回の式年遷宮に向けて、これらの機能を持つ殿舎の復興を目指して御蔭神社および御蔭山とその周囲を整備しております。下鴨神社の聖地ともいえる御蔭神社の保全と最重要神事の御蔭祭の継承のご支援を宜しく願っています。



『拾遺都名所図会』（巻之二）

社家の人々は、御蔭祭は、我が国最古の神幸祭の姿を連綿として継承しているとして述べています。下鴨神社にとり、最重要神事である御蔭祭の齋行や次の世代へ継承することを目的としたのが御蔭祭保存会です。今回のコラムでは、下鴨神社の御祭神の荒御魂が祀られています御蔭神社について述べさせていただきます。東山三十六峰の第二峰の御蔭山（別名・御生山）中腹に鎮座しているのが、境外摂社で史跡の御蔭神社です。御祭神は、下鴨神社の御祭神である賀茂建角身命（西御本宮）と玉依媛命（東御本宮）の荒御魂が祀られています。荒御魂とは『国史大辞典』（吉川弘文館）によりますと、「古代人の考えた神の霊魂の二つのはたらき。和魂はおだやかな神霊のはたらき、荒魂は荒々しいはたらきを、指すといわれる。（中略）古社の中で、本社を和魂の社とし、別に荒魂をまつる社として置いている例も多い。しかし、荒魂は、一般に神託や示現と結びついており、もとは示現する神霊を意味するアレミタマであろうという、橘守部の説もある。」（執筆担当：松前健）とあります。

歴代の社家は、生まれたての御神霊で力がみなぎる状態を荒御魂と解釈しています。また、御蔭祭の別名を「御生神事」と呼んでいます。この「みあれ」という言葉については、神の顕現、降臨、生誕、出現を指すと解釈していたことから、『国史大辞典』の解説にある「示現する神霊を意味する」と同義語であり、力あふれた若々しい御神霊が鎮まつておられ、御蔭祭にて顕現なされることを意味しているとも考えられます。そのようなことから、下鴨神社の東西御本宮と同じく、御蔭神社の御本殿も二棟鎮座しています。御本殿の形式は一間社流造となっています。現在の御本殿は、天保六年（一八三五）の式年遷宮の時に造営されたものです。なお、「御蔭」という言葉には、社家の人たちは祝詞にある「天御蔭」と「日御蔭」と同じ意味と解釈しています。これは大きな蔭を指す意味で、御祭神や天皇陛下などの貴人が居られる御殿や宮殿のことを意味します。そのことから、最も尊い御方が鎮まる場所という意味となり、御祭神が鎮まる神社という解釈がなされてきました。これ以前の御蔭神社は、御蔭山の麓に鎮座していました。その当時の

糺の森NEWS

発行所 公益財団法人世界遺産賀茂御祖神社
境内糺の森保存会事務局
www.tadasunomori.or.jp

春の糺の森コンサート 「音の森」開催(河合神社境内)

今年の「音の森」は、第35回式年遷宮進登記念コンサートとして開催しています。(下鴨神社の第35回式年遷宮は令和18年斎行) 4月は10名による声楽アンサンブルコンサート。5月はサクスカルテット、6月は二胡とアコーディオンによるデュオの演奏が行われました。毎回、多くのお客様が美しいハーモニーと音色に聴き入っていました。秋の最初のコンサートは9月16日(土)に開催。10月以降は左下段の催事案内をご覧ください。多くの方のご来場をお待ちしております。



第33回螢火の茶会と 糺の森納涼市

「螢火の茶会」は、裏千家淡交会様をはじめ多くの皆さまのご協力とご奉仕により、6月10日(土)に約2,500名のお客様をお迎えし開催いたしました。重要文化財の橋殿、細殿でのお茶席は4年ぶりとなりました。当日会員となった方々を含めて、366名の方が参席されました。神服殿では神賑行事として雅楽、箏曲、十二単衣と小桂姿王朝女人の雅楽舞、十二単衣の着付と王朝舞が披露されました。また、来場された方は瀬見の小川沿いに螢が舞う様子を楽しめました。

同時に楼門前表参道の「糺の森納涼市」では京の老舗13店の出店があり、多くの買い物客で賑わいました。
今年も多くの皆様にご奉仕とご協力賜り、心より感謝申し上げます。



- 〔お茶席奉納〕
裏千家前家元 千玄室様
〔お茶席奉仕〕
裏千家淡交会京都北支部様
〔箏曲奉仕〕
錦綾子社中様
〔雅楽演奏、雅楽舞・王朝舞奉仕〕
下鴨古楽会様
- 〔ご協力〕(敬称略・五十音順)
●松風園
●(株)西村工務店
●(有)林屋電気商会
●(株)藤田造園
●(株)ワコール
●ホールディングス

第33回糺の森市民植樹祭 「糺の森の後継樹育成事業」

4月29日(土・祝)の「昭和の日」に、来賓をはじめ多くの市民が参加されて、糺の森市民植樹祭式典を開催しました。最初に植樹奉告祭を執り行い、植樹祭式典では、千理事長、新木下鴨神社宮司のご挨拶、西脇京都府知事のご祝辞、また近畿大学講師田端先生への植樹レクチャーをいただきました。植樹レクチャーに続いて、成木献木者による植樹を行いました。今年も、39本(モミジ18本・ケヤキ10本・カツラ9本・ムク1本・エノキ1本)のご献木をいただきました。また、糺の森後継樹のモミジ・ケヤキ・カツラ・ムク・エノキの苗木を、式典に参加された方々を中心に植樹いたしました。式典後、献木者の方々は、お名前等を記載したプレートをかかけた成木とともに記念撮影に臨みましました。

運営にあたりましては、小林造園様より苗木500本をご寄贈いただき、また林屋電気商会様・藤田造園様に設営等にご支援ご協力をいただきました。ご参加、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。



- 〔成木献木者〕(五十音順)
●青山良実様 ●公益財団法人
●安齊英子様 ●大阪現代教育
●五十嵐淳隆様 ●振興財団様
●今田裕実子様 ●佐々木真一郎様
●垣本昇様 ●佐々木隆晴様(5本)
●株式会社 ●新屋久幸様(2本)
●伊藤園様 ●高崎秀夫様(2本)
●河野靖代様 ●玉井義朗様
●北嶋弘一様 ●手島千恵子様
●京都葵 ●中嶋京子様
●ライオンズ ●野尻恒雄様
●クラブ様 ●林信彦様
●久乗哲様 ●足田聡、愛様
- 肥田祐子様
●平林汰一様
●福島一二三様
●布施野日出生様
●別所啓伊子様
●細谷夏菜様
●堀之内まり子様
●増田公子様
●三浦由夫様
●餅田貴大様
●瑠璃菜様
●八木清太郎様
●渡邊卓様

催事案内 遊び、学ぶ、糺の森のつどいあれこれ

「秋の」糺の森コンサート「音の森」

月日 10月15日(日) 11月23日(木) 時間 午後2時~3時(予定)
場所 河合神社(糺の森南側)拜殿 参加 無料(自由)

出演アーティスト情報などは当財団公式ホームページやFacebookに掲載いたします。

糺の森財団 検索

詳細はホームページをご覧ください。

糺の森財団 www.tadasunomori.or.jp

お問い合わせは糺の森財団事務局まで ☎075-781-0010

下鴨神社 京都学問所だより

今夏、朝のドラマや大河ドラマの影響と思われませんが、秀穂舎などに、糺の森の生態系や歴史に加えて、植物に関するお尋ねが度々ありました。例えば、徳川家の三つ葉葵とカモ社の御神紋である双葉葵の関係などを解説した際に、三つ葉葵は架空の植物ですよ、と伝えますと驚かれる方が結構居られたことに驚きました(参考文献:「牧野富太郎『牧野富太郎選集』第四巻(東京美術 昭和四五年)」。

明治の開国以降、下鴨神社などに欧州からの植物学者が訪ね、河合神社の大銀杏や下鴨神社の社家の鴨脚家にある銀杏を観察していった記録などがあります。また、東京帝国大学をはじめとする植物学の研究者が社務所を訪れ、糺の森の生態系などの聞き取り調査や実地調査を行っていることが「社務日誌」などに書かれています。
なかには、牧野富太郎と共に調査研究をしていた植物病理学の白井光太郎(一八六三~一九三三)もあり、白井は「鴨の七不思議」の一つである「なんでも終」の調査を、明治十八年と四十二年に行っています。その事を「植物妖怪考」(大正三年)のなかで「下加茂社ノ終」という題で著しています。
比良木社(出雲井於神社)の社頭に様々な植物を植えること必ず終のように葉がギザギザになるという現象について、古くから災難除けや疫病除け(疱瘡除け)に植える風習があったことを紹介しながらも、調査時に植生していたのが、柃南天、柃木犀、柃茶梅花、柃葉唐茶、柃葉アラカシなどの元々がギザギザの葉である植物が中心となっていることを指摘すると同時に、あらゆるものが混生していること、神社は信仰を大切にするために、しっかりと管理するようにと苦言を呈しています。なお、この話は白井と親交のあった日本民俗学の大家である柳田國男も興味を持っていました。

比良木社と隣